

# SCHOOL DATA

〒270-1445 千葉県柏市岩井 678-3

TEL 04-7191-8121 FAX 04-7193-5504

■児童数/495人 ■教職員数/49人 ■周辺環境/水田、畑、山林 【平成22年5月1日現在】



# 千葉県立沼南高等学校



【地域の住民を招いての観察会】

## ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/1000m<sup>2</sup>
- 設置者/学校
- 設置した年/2007年
- 主な管理者/理科担当教員、科学部員  
環境サイエンス学系生徒

### 【生息している動物】

クワガタムシ、カブトムシ、オニヤンマ、ハグロトンボ、トウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエル、サワガニなど

### 【生育している植物】

アシ、シラカシ、シロダモ、ヤナギ、ヒサカキ、キンラン、ギンラン、コクラン、ゼンマイ、ジュウリョウ、マンリョウなど

### 【コンセプト】

本校は、敷地内に雑木林をもっている。その環境を生かし、土地の改変等は最小限にとどめる。ビオトープというよりも、「自然観察園」をめざす。

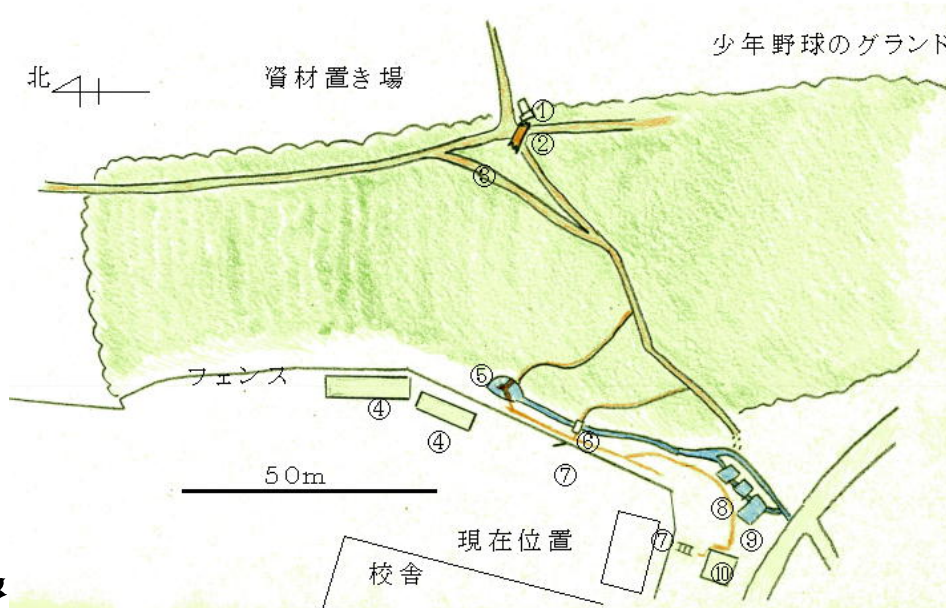
湿地の減少により絶滅の危機に瀕している生物（両生類）に生息の場を与えるために、湿田をつくる。

本校「環境サイエンス学系」生徒の生きた学習（フィールドワーク）の場とする。

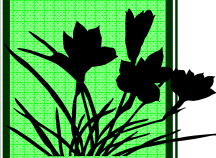
外部講師として、NPO団体や地域の施設の方を招き、交流を深める。それにより、より発展的な学習をするとともに地域の環境保護リーダーの育成を目指す。

### 【今後生息・生育させたい生物】

ニホンアカガエル、ヘイケボタルなど



- ① 庚申塔 (こうしんとう)
- ② たおれた杉
- ③ ジュウリョウの群生地 (じゅうりょう)
- ④ 部室
- ⑤ 湿地と木道 (しっち)
- ⑥ 橋
- ⑦ 出入口
- ⑧ 田んぼ
- ⑨ 枯れ草つみ
- ⑩ ホタル小屋





【中学生体験入学のようす】



【観察会のガイダンス】

## ビオトープの活用方法

### ■生徒

- ・環境サイエンス学系の生徒を中心として、生物観察やビオトープ整備を行う。

### ■地域住民

- ・今年5月に地域向けの観察会を実施した。この活動を定例化させたい。

## ビオトープの効果

### ■生徒への効果

- ・自然の大切さを直接体験できる。
- ・専門家を招聘して授業を進めることで、より発展的な学習ができる。
- ・観察会の講師を務めることで、自らがよく学べるだろう。

### ■教職員への効果

- ・外部団体との連携を深めることで、よりよい授業を作り出せる。
- ・自己研修の場となる。

### ■保護者・地域住民への効果

- ・身近な場所で、自然観察ができることで、自然の大切さを理解できる。
- ・地域住民に、本校の教育を理解してもらえる。

### ■その他、期待される効果

- ・地域の自然保護団体と連携をとることで、学校を核とした学びの場ができると思われる。

## 保護者・地域との連携

### ■保護者

- ・ビオトープに興味を持っていただいている。折を見て、観察会に招待したい。

### ■自治会、町会

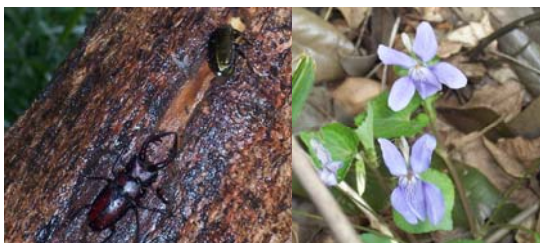
- ・今年から、地域の方（手賀の杜町会）向けの野生物観察会を行った。その際には、本校生徒が講師として活動した。

- ・近隣の小中学生を招いて自然観察会を行いたい。

### ■NPO

- ・「柏ホテルの会」「我孫子市鳥の博物館」の方、地域の自然観察員の方などから職員研修あるいは、授業の講師として指導してもらっている。

- ・より多くの専門家に関わっていただけるように、地域の情報を大切にしたい。



## 整備・活用・管理等の課題

本校の場合、元からある裏山と湿地をビオトープとして開発している。よって、まず裏山と湿地に生息する生物の把握が必要であり、それに時間がかかる（じっくり時間をかけることが大切）。

ザリガニ等の外来種をどう扱うか、スズメバチなどの危険生物をどう扱うかが難しいが、それが一つの勉強となっている。

水田への水の導入が問題である。今夏は降雨が少なく、完全に水がかれてしまった。対応策として、急遽雨水タンクを一基追加した。

反対に、増水時には雨水が大量に流れ込むため、その水量管理が必要である。

## 今後の展望

- ・裏山と湿地を調査した結果、豊かな自然が残されていることが分かった。引き続き、調査を続けると共にこのことを地域に発信し続けたい。

- ・水田に古代米を植えた。今後の成長が楽しみである。水田に生息する生物調査も行う。

- ・公立高校では、担当職員の異動が避けられない。生徒が主体的に活動することで、ビオトープ運営のノウハウが受け継がれるようにしたい。

## 整備担当者(教員、児童、保護者等)から

- ・生徒が動植物の知識が乏しく、今後のカリキュラム開発に工夫が必要である。

- ・ビオトープの測量が課題である。今年度は、中央工学校の方の指導を仰いでいる。

- ・雨水が流入するため、その流量管理が課題である。雨の時は、濁流となり、土砂が流れ込み、渇水時は干上がってしまう。

- ・カリキュラムの工夫が必要である。ビオトープの四季の変化とリンクしたカリキュラムを作りたい。



【雨水タンクの設置作業】